



胃は、どうして自分を消化しないの

胃液が胃を消化しないわけは

食べたものは、胃の中の胃液で消化され、吸収されやすい物に変えられます。胃液には、金属をとかしてしまうほどの、強い塩酸や、たんぱく質を消化する酵素がふくまれています。しかし、胃は胃液でとかさされ、消化されることはありません。そのひみつは、胃のかべから出る、ねん液というねばねばした液にあります。胃は、このねん液で保護されているため、かたい食べ物がふれても、傷つくことはありませんし、とかさされたり、消化されたりすることもないのです。

ねん液が胃のかべを守っている

胃液には、水分と塩酸と酵素（薬のようなもの）がふくまれています。酵素としては、ペプシノーゲンがあります。ペプシノーゲンは、塩酸といっしょになると、ペプシンに変化します。ペプシンは、肉やチーズ、魚、豆類などにふくまれている、たんぱく質を分解します。

しかし、ペプシノーゲンがペプシンに変化するとき、胃の内側のねん膜の繊維がこわされます。これを防ぐため、胃のねん膜細胞の表面には、ムチンという物質がふくまれた、アルカリ性のねばねばしたねん液が出されます。このねん液で胃の内側のねん膜はおおわれるため、胃は、胃液でとかさされたり、消化されたりすることはないのです。

ただし、食べすぎたり、飲みすぎたり、ストレスがたまったりすると、このねん液がはたらかなくなり、自分の胃液で、自分の胃を消化してしまうことがあります。それが「胃かいよう」です。（監修・保志 宏）

